

CWA NEWS



2018年度ウィスコンシン州友好使節団のフェアウェルパーティ



文化・芸術グループによるダンス

合わせゆっくりと優雅に、そして徐々に激しさを増す躍動感のあるダンスを披露し参加者を魅了しました。

続いて、永井俊秀当協会副会長が、使節団員の方々に来葉への感謝の意を表するとともに、今回の交流に協力してくださった関係者の方々に礼を述べました。来賓の富沢昇千葉県総合企画部国際課長は、千葉県の交流窓口となっている当協会やご協力いただいた方々への感謝と併せて、今後の末長い交流への期待を述べました。

これを受け、使節団長のシャーロン・ダートウカさん（ウィスコンシン千葉委員会委員長）は、今回の交流期間中、団員は民間大使としての責任と役割を果たしたことや、今回訪問した先々でのおもてなしへの感謝、今後の交流への期待などを述べました。

その後、永井副会長から 2018 年秋の外国人叙勲で旭日小綬章を受章された使節団員のアレクサンダー・ダートウカさんに記念品が贈られた後、板倉正典当協会監事の音頭で乾杯となり、各テーブルでは夕食をとりながら交流の輪が広がりました。

お腹も満たされたところで、当協会から使節団員全員に

昨年 11 月に来葉したウィスコンシン州友好使節団のフェアウェルパーティが、去る 11 月 29 日（木）ホテルポートプラザちばで開催されました。

参加者は文化・芸術グループ9名、教育グループ3名の使節団員のほか、御来賓の方々、ホストファミリー、ウィスコンシン出身のALT、千葉ウィスコンシン協会員等総勢 49 名です。

冒頭、文化・芸術グループであるネフェルタリ・アフリカン・ダンス・カンパニーのメンバーにより、西アフリカのナイジェリアのダンスが披露されました。巡礼の踊りということで、肉体の純粹さを表す白い衣装を身に着けたダンサーが会場の入り口から一人ずつ登場した後、太鼓のシンプルなりズムに



永井俊秀副会長



富沢昇国際課長



シャーロン・ダートウカ団長



浅沼社中の皆様による演奏

記念品が贈られ、ウィスコンシン千葉委員会からは当協会へキルトの旗のプレゼントがありました。

最後に会場を盛り上げたのは、当協会運営委員の浅沼明夫社中の皆様による津軽じょんがら節や花笠音頭の歌と踊りなどです。激しさと静けさを織り交ぜた演奏に、参加者は魅了されました。

そして、参加者全員による記念撮影で終了したのですが、いくつかのテーブルではホストファミリーとの別れを名残惜しむかのように会話がいつまでも続き、これまでになくアットホームなフェアウェルパーティとなりました。



参加者全員で記念撮影

文化・芸術グループ

文化・芸術グループは創立50周年を迎えたNefertari African Dance Companyの6名の皆さんが木更津市内各地で踊りを披露しました。

11月25日は、木更津駅前で開催されていたオーガニックフェスの会場で公演しました。ドラムの音が鳴ると、周りにいた人たちの目が一斉にダンサーたちに集まりました。初めは手拍子や足拍子をして体を動かしていた人たちが途中から一緒に踊りに参加し、市民との交流ができました。

11月26日の午前中は、木更津総合高校を訪問し、712名の1年生の皆さんの前で公演しました。アフリカの伝統的なお祝いのダンスが披露されると生徒たちの体も自然と小刻みに動いていました。和太鼓クラブの皆さんの演奏があったり、それぞれの太鼓に触れてみたりする体験もあり、高校生たちと触れ合うことができました。午後は高倉観音や道の駅に行き、日本文化に触れることができました。その後、児童養護施設「野の花の家」を訪問し、子供たちと交流することができました。

11月27日は、海ほたるや旧安西家住宅、きみさらずタワーを訪問した後、きさらず幼稚園を訪問し公演しました。最初はじっと前を向いて踊りを見ていた子供たちも輪になって一緒に踊るように誘われると、楽しそうに踊り始めました。

11月28日は、鋸山を散策しました。ウィスコンシン州には高い山がないため、十分山の雰囲気を感じ、楽しみました。石仏や五百羅漢に驚いていました。その後、酒造会社を訪れ、酒造りの過程などについて説明を受けました。

11月29日は、2019年度に市川市から派遣予定のグループや同市国際交流協会の皆さんと交流しました。

<団員> ※NADC:Nefertari African Dance Company

Ms. Marilynn Douglas :NADC ダンサー
 Ms. Jaia Douglas :NADC ダンサー
 Mr. Jaleel Douglas :NADC ドラマー
 Ms. Rayesha Harris :NADC ダンサー
 Ms. Tyneica Shaw :NADC ダンサー
 Mr. Earl Thompson :NADC ドラマー
 Dr. Sharon Durtka :使節団団長、ウィスコンシン千葉委員会委員長
 Dr. Alexander Durtka :ウィスコンシン千葉委員会理事
 Mr. Clayborn Benson :カメラマン

<行程>

- 11/25 ホストファミリー対面式
オーガニックフェスティバルで公演
- 11/26 木更津総合高校 高倉観音 道の駅うまくだの里
児童養護施設「野の花の家」
- 11/27 海ほたる 旧安西家 きみさらずタワー きさらず幼稚園
- 11/28 鋸山 道の駅 保田小学校 小泉酒造 酒匠の館
- 11/29 市川市訪問



観客も一緒にダンスに参加しました



1年生712名が公演を参観しました



全員でsmile!



子供たちも一緒に踊りました



市川市国際交流協会の皆さんと交流するMarilynn さん

交流活動

友好使節団員からの報告

WCI Goodwill Delegation 2018 Culture Group

Marilynn Douglas

(Nefertari African Dance Company, Director)

In the midst of preparing for the Nefertari African Dance Company's 50th Anniversary, I received a call inviting the dance company to perform in Japan. With much excitement I sent out a group text to see who would be interested. After scrambling to get passports, paperwork, preparing for Folk Fair, attending an orientation for Japan and celebrating 50 years of existence, we were finally Japan Bound. The excitement of performing in Japan and staying with a host family was an unexplainable feeling, not just for me but for the other member of the group, too.

Besides the delay in Detroit, we arrived in Japan, settled into the hotel and were ready for a week stay. Early Sunday we had breakfast, headed to meet at the Kisarazu Community center and were welcomed by Mr. Suzuki with a language translator. I could tell by the energy Mr. Suzuki had right then that we would have a wonderful time. With open arms they embraced us (myself, Jaia & Jaleel) treated us just like family as if we had already lived with them. They made sure we had breakfast daily, and a variety of foods to eat, both cold and hot. Of course we had some traditional Japanese food for breakfast. This included: Japanese cereal, fruit, eggs (boiled, scrambled & an egg bake), bacon and little "wieners/hot dogs" They always gave us a variety to choose from. One noticeable thing was if there was some food left over from the evening, Mrs. Suzuki always had it on the breakfast table in the morning. They made sure we got to our daily drop off location and picked us on time. Our family daily morning and evenings talks/discussions were great. We learned so much about Japanese culture and were able to share our own cultural experiences. We learned how to communicate and understand our differences and celebrate the similarities. We shared pictures with them and they shared with us the pictures in their homes. The night Illumination at Tokyo Bay was amazing and beautiful to see. They took us to their Outlet Mall to shop, even to a discount store. Dinner was different daily including a trip to "Big Boy" where we had steak & rice. I truly enjoyed our stay and now have a new family to communicate with and forever embrace. The four nights with our families went quickly and it seemed strange having to pack up and prepare to leave. Departing from our families early Thursday gave me time to process that it was really almost time to go home, but seeing them again at the farewell dinner gave me a final time to say "see you later", and I knew that we had a new Japanese family for the rest of our lives.

All of our performances were a lot of fun as well. Although a little cold, we had a great time performing at the outdoor Organic Festival. However, once the dancing started, we warmed up. At the Kisarazu Sogo High School performance, the student and staff greeting displayed nothing but love and appreciation. The Japanese drum group was simply an amazing group full of energy and love. The Kisarazu Kindergarten school experience was full of energy. The little kids truly enjoyed the "audience participation". They smiled and had a lot of fun participating and watching our performance. Another very memorable performance was at the Children's Home. They loved our dancing, and we loved the Umbrella Dance they presented us with. My most memorable moment from the Children's Home was when a little boy was imitating our adult drummer with his numbers game. The last performance was with the Japanese Women's Group. I look forward to seeing them in Wisconsin. They interacted with Nefertari, inquired about our costumes and allowed us to share their "clappers" that they performed with. The enjoyed our dancing, and even imitated some of the moves after.

The different tourist sites that we got to see while visiting Japan were all very beautiful. One of my favorite sites was climbing Mt. Nokogiri. Initially the thought of climbing a mountain was not exciting, however after arriving there and riding the cable car up, seeing the view was simply amazing & beautiful. There were lots of stairs, but the end result of getting to the Jigoku Nozoki (View of Hell) was a life lasting memory. Seeing the Buddha and the other statues will last with me forever. I enjoyed visiting the temples, markets, museum and seeing most places from up high. I tried a few new foods also while visiting Japan including the fishery at the market. The Sake Winery was an experience; although the sake was a bit strong for me. Visiting the Governor of Chiba Prefecture made the entire group feel important. The Governor was full of energy and seemed excited to meet with the Chiba-Wisconsin Delegation group.

Being a part of the Chiba-Wisconsin Goodwill Delegation for 2018 was an awesome experience. The entire trip was indescribable. I especially thank, Ms. Yasuko Aoki, Ms. Yoshie Kato and Mr. Tetsuji Ogawa for the hospitality the entire trip! I can't forget and forever grateful for Mrs. Sharon Durtka for the invitation.

《要旨》

ネフェルタリ・アフリカン・ダンス・カンパニー50周年記念準備の真ただ中にあったとき、日本公演のお誘いの電話をいただきました。大慌てでパスポートを取得し、日本へ向かうことができました。日本で公演し、また、ホストファミリーのもとに滞在することは、私だけでなく他の団員にとっても説明しがたいほど刺激的なことでした。

日本に到着後の日曜日、木更津コミュニティーセンターで鈴木さんの歓迎を受けました。活発な鈴木さんを目にしてすぐに、素晴らしい時間を過ごせるだろうと感じました。両腕を広げて私たちを抱きしめ、家族であるかのように接してくれました。

毎日の朝食では日本食など色々な食べ物を出してくれました。ホストファミリーとの会話や話し合いは素晴らしく、日本文化やコミュニケーションの取り方を学びました。アウトレットモールなどにも連れて行ってくれました。夕食は毎日異なり、「ビッグボーイ」でステーキを食べることもありました。

今や、いつまでも受け入れてくれるファミリーができたのです。4日間はあっという間に過ぎ、帰る準備をするのが不思議に思えました。フェアウェルパーティーで再び彼らを目にしたとき、最後になってしまいましたが、「さようなら」を言うことができました。私たちは、日本に生涯にわたる新しいファミリーができたのだと確信しました。

私たちの公演もまたすべて非常に楽しいものでした。オーガニックシティフェスティバルでの屋外公演は素晴らしく、木更津総合高等学校では、生徒と職員の愛情と感謝の気持ちが伝わってきました。きさらぎ幼稚園では、みんな笑顔で一緒にダンスをしたりしてとても楽しんでくれました。

養護施設では、子供たちは私たちのダンスを気に入ってくれ心に残りました。最後の市川市の日本人女性のグループとの公演も楽しく過ごしました。

観光もよかったです。鋸山登山の頂上からの景色は、実に見事で美しいと思いました。地獄のぞきや、大仏、他の石仏たちは永遠に心に刻まれることでしょう。お寺や市場、博物館を訪問し、高台から多くの景色を眺めて楽しみました。魚市場などで新しい食べ物に挑戦したりもしました。酒造所もよい経験となりました（お酒は私には少し強かったです）。

千葉県庁への訪問では、県知事がエネルギーで、ウィスコンシン州友好使節団との面会に胸を躍らせているようでした。

2018年度ウィスコンシン州友好使節団の一員となれたことは、素晴らしい経験となりました。

特に、青木さん、加藤さん、小川さんの訪問中のおもてなしに御礼申し上げます。また、シャーロン・ダートウカさんにつきましては、ご招待いただきましたことを一生忘れず感謝いたします。

▶教育グループ

教育グループは、マディソン地域工科大学（MATC）保健教育学部Kliminski副学部長代行、Ms. Noble及びウィスコンシン千葉委員会のMs. Michalskiの3人でした。

11月26日は、県内で最も古い民間の精神病院である木村病院（千葉市）を訪問し、会議室での病院の概要説明や意見交換の後、院内を視察しました。

11月27日は、千葉大学大学院看護学研究科を訪問し大学の概要や、終末期医療ケアについて意見交換や施設見学を行いました。午後は、地域の中核病院である千葉大学医学部附属病院を訪問し、病院の概要について説明を受けた後、院内を見学し、院内での工夫や日米の文化の違い等についての認識を共有しました。

11月28日は、県立保健医療大学を訪問し、看護学科、リハビリテーション学科、歯科衛生学科の概要について説明を受けた後、校内を視察し、実習などの様子を見学しました。また、Dr. KliminskiからMATCについてプレゼンテーションがありました。

11月29日は、千葉県知事への表敬訪問後、県立幕張総合高校看護科を訪問し、同校の概要について説明を受けた後、校内の施設や実践的な授業の様子を見学しました。

3人の使節団員はどの施設でもとても熱心に視察し、興味深く説明を聞いていました。

<団員>

Dr. Kerri Kliminski：マディソン地域工科大学
保健教育学部副学部長代行（看護師）

Ms. Sonja Noble：マディソン地域工科大学
保健教育学部講師（看護師）

Ms. Mindy Michalski：ウィスコンシン千葉委員会

<行程>

- 11/26 木村病院
- 11/27 千葉大学大学院看護学研究科
千葉大学医学部附属病院
- 11/28 県立保健医療大学
- 11/29 県立幕張総合高校看護科



木村病院での意見交換の様子



千葉大学大学院看護学研究科の実習室を見学



千葉大学医学部附属病院での概要説明の様子



県立幕張総合高校看護科の介護実習室を見学



県立保健医療大学歯科衛生学科の実習を見学

交流活動

友好使節団員からの報告

WCI Goodwill Delegation 2018 Higher Education & Healthcare Report

Kerri Kliminski EdD, MSN, RN & Sonja Noble MSN, RN

Wisconsin has enjoyed a sister state relationship with Chiba Prefecture in Japan since 1990. Exchange of delegates representing culture, education, healthcare and business occur on a rotating basis. The 2018 Wisconsin Chiba delegation traveled to Japan November 23- December 1, 2018. Healthcare Education delegates included Kerri Kliminski and Sonja Noble of the Madison College Associate Degree Nursing Program. Mindy Michalski assisted in navigating the culture and traditions as a previous culture member and current Wisconsin Chiba committee member.

Professional visits were made over a four-day period to universities, hospitals and a high school offering a nursing program in Chiba prefecture.

The first professional visit took us to Chiba University to pick up Dr. Shohei Tachi who escorted us to Kimura Mental Health Hospital. He presented information related to the prevalence of psychiatric illnesses, rates of suicide, patient length of stay (LOS) and staffing ratios. Points of particular interest discussed included significantly longer inpatient LOS and transition to the community resources, challenges associated with mental illness and an aging population and similarities with the US in having qualified providers to meet patient care needs. Dr. Tachi and the charge nurse conducted a most thorough tour of the facility and engaged additional staff in introductions and answering questions.

On the second day of professional visits, Dr. Zaiya Takahashi and Miwa Watanabe, R.N., MSN welcomed us to the Chiba University Nursing School. They presented information on topics such as End of Life Care and curriculum, Advanced Care Planning and an Integrated Community Care System. Discussion included the increased aging populations of our two countries and the importance of providing care while respecting dignity and independence. Dr. Watanabe invited us into her classroom where students were working in groups and then presenting nursing care plans for a post-liver surgery patient. The nursing students remained remarkably focused on their task despite our intrusion and their critical thinking skills are evident in both their written work and verbal presentation of the nursing process. We also toured the Nursing Skills Lab and other classroom areas.

After lunch, we toured Chiba University Hospital. This is an 850-bed hospital. We were able to tour a Liver Transplant unit as well as a Chemotherapy clinic that serves 100 patients per day. We exchanged ideas about the wearing of surgical masks both in an inpatient and outpatient environment. This would be a fascinating comparative study to do between Chiba and Wisconsin. Following our tour, presentations were given by representatives from health informatics and Community Care and Patient Care Services departments. Both presentations highlighted the similar challenges faced in the USA with health information portability and accessibility as well as the need for early, coordinated discharge planning to decrease patient length of stay and financial burden to acute care organizations.

On our third day, faculty and administration of Chiba Prefectural University of Health Sciences welcomed us for presentations on nursing, dentistry, physical therapy and an overview of research conducted by the university. Dean Ogata was a most gracious host and our lunch prepared by the nutrition students was one of the best meals of the entire trip. We had rich discussion about the similarities and differences in healthcare provision and delivery as well as healthcare education between Japan and the US. Since our return, the Madison College President has requested the Director of International Education be in contact with leadership at the Chiba Prefectural University of Health Sciences related to a possible future partnership and articulation agreement.

In the afternoon, we toured the school viewing the dental clinic, student classroom, and lab spaces for the four health programs offered at Chiba Prefectural University of Health Sciences. We appreciated the opportunity to participate in our first tea ceremony conducted by nursing professor Minami Kanda as well as her patience in teaching us this calming and relaxing ritual. At the conclusion of our day, nursing students released from class enjoyed the opportunity to take a picture with us and we have in turn enjoyed the opportunity to share the picture with our students.

On our final day of professional visits, we were welcomed to Makuhari Sogo High School by Principal Kitabayashi Hidetaka and his staff on our last afternoon of professional visits. Over tea and snacks, information was shared about the five-year nursing program that students start at the age of fifteen. This highly competitive program accepts only 40 students per year and boasts a 100% National Certification Exam pass rate. It is the only high school of its kind in Japan. Despite the school's success, no plans exist to expand enrollment or open other nursing program high schools. A video of students performing basic skills demonstrated not only the rigor of the program but also the maturity of these young students in acquiring foundational patient care skills.

Staying with host families is a rich experience that contributes significantly to the exchange. Kerri had opportunity to stay with the Miyazaki family consisting of mother, Suiko, father, Miki and sons Joe (14) and Riki (8). Sonja had opportunity to stay with Ms. Shinobu Kitamoto.

Kerri is thankful to have had the opportunity to develop a friendship with the Miyazaki family and look forward to continued email exchanges with Suiko. She is hopeful the family will visit Wisconsin one day and allow her to repay their kindness.

Shinobu was an incredibly gracious host and Sonja was fortunate and so grateful for the time spent getting to know and learn about each other.

We will be forever grateful to have participated in the 2018 Wisconsin Chiba Goodwill delegation. It was an honor to build relationships with our Chiba Wisconsin Association and Chiba Prefectural International Affairs hosts, the many professionals who helped us learn and were open to an exchange of ideas and information and our host families who were patient, kind and welcoming in allowing us an experience beyond that of any tourist visiting Japan. The stories we have begun to share with family, friends, colleagues and students will have a lasting impact and we are committed to supporting the sister state partnership. It was truly a transformational experience.

《要旨》

教育グループは、マディソン地域工科大学保健教育学部のケリー・クリミンスキ及びソニャ・ノーブルとウィスコンシン千葉委員会のミンディ・ミカルスキーの3名です。

最初の訪問先は木村病院で、千葉大学の舘祥平助教授が案内してくれました。議論で特に興味深かった点は、非常に長い間入院している患者と地域資源への溶け込み、精神病及び高齢人口関連の課題など、アメリカとの類似性が見られることなどです。

2日目は、高橋在也博士ほかが千葉大学看護学部を案内してくれました。日米の高齢人口の増加などについて議論しました。渡邊美和助教授の教室では、生徒たちがグループごとに肝臓手術後の患者の看護計画についてプレゼンテーションしていました。

昼食後、850床の千葉大学医学部附属病院へ行きました。肝臓移植設備と化学療法クリニックを見学した後、保健情報科学と地域医療・患者支援センターの代表者から発表がありました。どちらの発表も、手軽で容易に健康情報へアクセスできることの意義などアメリカが直面する類似した課題に焦点を当てたものでした。

3日目は、県立保健医療大学の教授陣の歓迎を受け、看護や歯科衛生、理学療法などの研究概要の発表を聞きました。私たちは、日米間の保健医療の供給と提供及び医療教育における類似点と相違点について深く議論しました。帰国後、マディソン地域工科大学の学長は、国際教育の責任者に、将来的に県立保健医療大学と相互提携ができないか交渉するよう依頼しています。

最終日は、幕張総合高校で、北林栄峰校長ほかから、5年一貫看護養成課程について説明を受けました。高い競争力を持つカリキュラムは、年に40人しか生徒を受け入れず、国家試験合格率が100%であることを誇りにしています。生徒たちの動画を見ましたが、カリキュラムの厳しさだけでなく、基礎的な患者治療技術を習得する若い生徒たちの完成度の高さが窺えました。

ホストファミリーと共に過した経験は、今回の交流を非常に豊かなものにしてくれました。ケリーは宮崎家に、ソニャは北本家に滞在しました。二人ともそれぞれのご家庭と友好を深めることができとても感謝しています。ケリーは、宮崎家の家族がいつかウィスコンシンを訪れることを望んでおり、その際には恩返しをしたいと思っています。北本家にはとても親切なおもてなしをしていただき、ソニャは幸運でした。

私たちは、2018年度ウィスコンシン州友好使節団に参加できたことに感謝します。千葉ウィスコンシン協会をはじめ多くの方々のおかげで、豊かな経験をする事ができたことを光榮に思います。家族、友人などこの経験を共有し始めたところです。本当に何かの啓示を受けたような経験をする事ができたと思います。

ホストファミリーを体験して

ホストファミリーを体験したご家族から寄稿していただきましたのでご紹介します。

木更津市 鈴木 僚一さん

食文化の違いを乗り越えて

楽しみにしていたその時がやってきました。今回ミルウォーキーからお迎えした3名は50歳の女性、17歳の姪、10歳の甥で、4泊5日の行程でした。木更津駅前での公演は、太鼓の迫力ある演奏とアフリカンダンスがとても素晴らしかったです。我が家では、日本食を体験していただくために夕食にはすき焼き、天ぷら等を用意していましたが、野菜や魚介類は苦手という理由で断られてしまい残念でした。夕食は外食で、KFC、マック、ビックボーイと肉肉肉という食生活でした。ちなみに朝食はシリアルと牛乳、ゆで卵等で簡単でした。

一行のスケジュールは8:00~18:00とハードで、初日の午後以外は家に帰ってからそれ程交流する時間がなく、少々残念でした。しかし共同生活を



マリリンさんに抱っこされ



家の前で「また来てね」

していく中で、大変貴重な経験ができました。例えば、1歳になる孫の七彩を「ななー!」「ななー!」と可愛がってくれ、七彩も「マミー!」「マミー!」と懐いて抱っこされていました。孫は12月になった今でもマミーやお姉ちゃん、お兄ちゃんが帰って来ないことを不思議に思っているようです。

他にも、夜にお酒を酌み交わし、話に花を咲かせたことも良い思い出です。またこのような企画がありましたらホストファミリーとして是非参加したいと考えております。関係者の皆様、ありがとうございました。

千葉市 宮崎 穂子さん

「いつも通りに過ごして下さいね。」と初めにケリーさんが言ってくれて下さり、これまでの留学生の受け入れ時同様、自然体でありのままの日本の家庭生活を見てもらえばいいのかなと、緊張がほぐれました。

ケリーさんとは2歳違いの同年代、子供が二人、うち一人が14歳という共通点もあり、すぐに打ち解けました。人として学ぶ事も多く良い刺激を受ける一方、国や境遇は違っても子育ての事や価値観など、母親として主婦として共感できることも多く感動しました。

お二人のお嬢様からうちの息子達宛に心のこもった手書きのお手紙とプレゼントをいただき、こちらもお返事を書いたり、遠く離れていても子供達同士で温かい交流ができたのも嬉しいことでした。



千葉城前の茶店いのはな亭にて



自宅のリビングにて

ケリーさんは食べ物の好き嫌いもなく、炊込御飯や、芋煮汁、おでんなど日本の家庭料理を色々楽しんで下さいました。中でも家族で囲んでいただく鍋料理に胡麻だれやポン酢が大好きでした。たとえ短期間でも毎日ひとつ屋根の下で寝食を共にすると、互いに親しみが増す気がします。楽しんで貴重な経験をさせていただきつつ、少しでも国際交流に貢献できたかと思うと大変喜びを感じます。私達家族に常に優しく気さくに接して下さいましたケリーさんと、素晴らしい機会を下さった協会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

県民との交流の輪が広がりました!!!

2018年度ウィスコンシン州友好使節団12名は昨年11月24日(土)に来葉し、12月1日(土)に帰国しました。その間多くの県民との出会いと交流がありました。その一部を写真で紹介します。



11月24日、使節団が成田空港に到着。長旅にもかかわらず皆さん元気そう!!



文化・芸術グループとホストファミリーとの対面式
(11月25日 きさらづみらいラボ)



文化芸術グループと2019年度派遣グループ・市川市国際交流協会の皆様との交流会(11月29日 市川市文化会館)



教育グループが幕張総合高校看護科を視察
(11月29日 看護科校舎前)



帰国当日、宿泊先でCWAのメンバーと
(12月1日 ホテルポートプラザちば)



12月1日、帰国前の成田空港で皆さんお疲れ様でした!!

元ALTからの現況報告



Jacob Letter

Hello everyone! I find it difficult to believe I've been back in Wisconsin for nearly five months already. It was great to see my family when I got back. I had a few weeks of break before the American school year started at the end of August. Since then, I have been working as the Director of the Modern Foreign Language Education Department at Glenwood City High School and Middle School. It is a very fancy title for my department because I am the only teacher in my department. I teach all of the Spanish classes for the school district which means I teach 7th grade through 12th grade (Japanese Junior High School 1st years- Senior High School 3rd years). It is very fun to still be teaching even if I cannot be teaching English in Japan, which I miss very much. Unlike Japan, I am not an assistant teacher, which means I must create all of my own material and lesson plans, write all of the tests, and teach 7 classes a day on my own. It is very challenging, but I love the ability to teach whatever I want and make any project I want as well. And even though I have more classes every day here, I have about 1/9 of the students I had in Japan, so I can know all of my students better and make better relationships with them.

As for my family, of my three brothers, my brother Josh got married in September. It was very exciting and I am glad I could be a part of it. My middle brother, Jeremiah, started his own company recently and it was cool to visit him and see what he has been up to while I was gone. Finally, my youngest brother, Jared, left for a semester in Thailand on Christmas Day. It was fun to see another family member follow in my footsteps and leave the country to explore the big, wide, amazing world that we live in. I'm really hoping he has an amazing adventure there.

The two pictures I'm sending along include a picture from my brother Josh's wedding reception. He and Paige got married in California but we held a reception for them in Wisconsin so the whole family could join. The second picture is of me with my high school Spanish teacher and a Spanish teacher friend of ours. Sra. Martinson (with the dark hair) was my Spanish teacher for 4 years in high school as she was the reason I wanted to become a Spanish teacher in the first place. We had the opportunity to meet at a conference for Language Teachers here in Wisconsin in November. It was very good to see her again, and share my marvellous adventures in Japan with her.

I really hope to make it back to Japan soon, but until then, if anyone comes to Wisconsin or Minnesota, let me know and I would love to meet up again!



ジョシュと妻ページの結婚披露宴

皆さん、こんにちは。ウィスコンシンに戻ってもう5か月近くになるなんて信じられません。戻ったときは、家族に会えてうれしかったです。アメリカの学校の新年度が始まる8月末まで、数週間休暇を取りました。それ以来、グレンウッド市立中学・高等学校の現代外国語教育部長として働いています。とても仰々しい役職名ですが、それもそのはず、私が部でただ一人の教師だからです。私は、学校管内のスペイン語の全クラス、7年生から12年生まで（日本の中学1年生～高校3年生に相当）を教えています。日本で英語を教えられないのは大変さびしいですが、現在もお教えるという仕事に携わるのはとても楽しいです。（語学指導助手だった）日本と違い、こちらでは助手ではありません。すなわち、教材や授業計画すべてを作成し、試験問題を書き、一日7コマの授業を自分ひとりで行わなければなりません。とても大変ですが、教えたいことを教えられ、やりたいプロジェクトもできるので、大いに気に入っています。また、毎日の授業コマ数は日本より多いですが、生徒の数は九分の一ほどです。したがって、生徒全員のことをよく知ることができ、より良好な関係を築くことができます。

家族についてですが、三人の弟のうち、一番上のジョシュが9月に結婚しました。とても感動的で、その一部に関わることができて非常に良かったです。真ん中のジェラミアは、最近会社を立ち上げました。彼の会社を訪ね、自分が日本にいる間に彼が何をしてたかを知ることがすばらしいことでした。最後に、一番下のジャレッドですが、クリスマスの日に新学期のためタイに向かいました。家族の一員が私のたどった足跡にならない、我々が暮らすこの広大で素敵な世界で見識を広げるために国を離れるのをうれしく見届けました。現地で彼が驚きに満ちた冒険をすることを望んでいます。



左から：ノルコリ先生、
ジェイコブ・マーチンソン先生
（外国語教師会議にて）

お送りした二枚の写真のうち上の写真は、ジョシュの結婚披露宴の写真です。彼とページはカリフォルニアで結婚しましたが、私達は家族皆が参加できるようウィスコンシンで披露宴を催しました。左の写真は、私と高校時代のスペイン語教師、我々の友人のスペイン語教師です。マーチンソン先生（黒髪）は、高校時代の4年間、私のスペイン語の先生で、そもそも私がスペイン語教師を目指したのは先生の影響です。私達は、11月にウィスコンシンで開かれた外国語教師のための会議で会う機会に恵まれました。先生に再会でき、大変うれしかったです。日本でのすばらしい冒険談をお話しました。

近いうちに日本に戻ることを心から願っています。でも、それまでの間、ウィスコンシンやミネソタにいらっしゃる機会がありましたらお知らせください。是非、再会しましょう！

春とハロウィンが一緒にやってきた! “食文化deコラボ2019”

今年の“食文化deコラボ2019”は2月24日開催となりました。好天に恵まれた日曜日の10時、千葉市生涯学習センターの食文化研究室に30人の参加者が集まり、自家栽培の菜花やジャガイモ、さつま芋などの千葉の食材を前にやる気満々です。

恒例の太巻き寿司は、千葉伝統郷土料理研究会の三橋さんと山形さんの指導を受け、ALTや初参加の方々がチャレンジ。見事な出来栄えに大満足の様子です。グリーンキャセロールに菜花を使うことで春らしさを演出したり、マシュマロを使ったスイートポテトやスパイシーなアップルサイダー、色どり豊かなサラダなど、アイデアを生かした料理が次々完成し、ターキーの焼き上がりを待ちます。皆が注目の中、オープンからこんがり焼き色のついたローストターキーが出されると、ハロウィン気分が一気に盛り上がりました。



参加者全員で協力しながら料理を作りました!!



手際よくセッティングされたテーブルに着席し、待ちかねた食事会の始まりです。手作り料理に“おいしい”と舌鼓を打つ人、ターキーをサーブする人、レシピのポイントを聞く人、写真を撮る人など、賑やかで楽しい雰囲気が伝わってきました。お腹がいっぱいになったところで、一人ひとりが自己紹介です。英語あり日本語ありのスピーチは、ユーモアと個性にあふれていてとてもフレンドリー。あっという間に時間が過ぎていきました。

この食文化交流は、ウィスコンシン州と千葉県の食文化を通して互いを理解し、友好を深めようと数年前に始まりましたが、今も続いている陰には、県内の学校で活躍するウィスコンシン州出身のALTの存在があります。千葉の



全員で記念撮影

生活をエンジョイする若い彼らに触発され、英語のスキルを高めたりウィスコンシン州にまた行きたいという参加者も多く、交流の輪が広がっているように感じます。まさに日本語で言う「おなじ釜の飯」ですね。今日、料理の下準備から後片付けまでを一緒に体験した皆さんは、どのシーンを胸に刻まれたのでしょうか。

2月24日(日)の食文化交流会に参加したALT等の皆さんに日本語で訊きました。

Callie Leone(鎌ヶ谷市)①

①日本のサツマイモ ②丁寧 ③もっと外国人と積極的に話してほしい

Samuel Doty(山梨県北杜市)①

①焼きそば ②親切 ③もっと外国人に積極的に声をかけてほしい

Gio Nava Garcia(匝瑳市)①

①お好み焼き ②丁寧、やさしい、犯罪もなく安全 ③外国人に対しシャイ、もっとオープンにしゃべってほしい

Amanda MacDonald(君津市)②

①茶碗蒸し ②人を褒める ③自分でやりたいのに、ちょっかいを出し過ぎ、ほっといてほしい

Max Gumble(千葉市)②

①西京焼き ②時間に正確で綺麗な電車のシステム ③外国人が箸を使うと驚くが、外国人はみんな出来る、世界の常識を知ってほしい

Jamison Taube(東金市)②

①つけ麺で食べるラーメン ②落ち着いている ③仕事の受け過ぎ、シェアした方がいい、子どもも勉強ばかりしないで遊んでいい

Paula Green(流山市)②

①サバの味噌煮、シシヤモ ②困った時に直ぐ助けてくれる ③外国人も日本人と同じように個性があるのに、外国人に対し期待や偏見がある

Rose Yeazel(成田市)④

①お好み焼き、天ぷら、みそ汁 ②礼儀正しい、やさしい ③真面目で夜遅くまで仕事、もっと楽しんで遊んでいい、高校生も勉強し過ぎ

Tina Brown(東金市)⑤

①お好み焼き ②おもてなし、親切、助けてくれる ③大人はみんな働き過ぎ、子どもは勉強し過ぎ

Patrick Grimes(千葉市)⑥

①カツオのたたき ②飲みニュケーション ③飲んでいない時にコミュニケーションをとる

Melissa Janssen(柏市)⑧

①お好み焼き ②冒険など危ないことはしない ③問題が生じた時、空気を読むのではなくコミュニケーションをとってほしい

質問は、

- ①好きな日本の料理で、世界に知らせたいもの、
 ②日本人の素晴らしいところ、
 ③逆に、日本人に変わってほしいところの3つです。
 ()内は住所 ●内は日本の滞在年数

マディソン市における初の名誉領事ウィリアム・ホワイト氏と面談

去る1月15日(火)、ウィスコンシン州マディソン市における初の名誉領事として伊藤在シカゴ日本国総領事から任命されたウィリアム・ホワイト氏(写真中央)と千葉ウィスコンシン協会のスタッフが都内で面談しました。協会からは、千葉県とウィスコンシン州との姉妹提携や



CWA発足の経緯をはじめ交流の様子を伝えるとともに、今後一層の交流への支援をお願いし、快諾していただきました。

なお、当日は、外務省地方連携推進室から栗原暖子首席事務官(写真右から2人目)が同席されました。

※名誉領事について

名誉領事は、日本の在外公館が設置されていない地域において、我が国及び我が国国民の利益の保護、外国との文化交流の促進等を図ることを目的として任命された方です。

CWAからのお知らせ

2019年度 理事会

5月21日(火)ホテルポートプラザちば

2019年度 総会・交流会

6月8日(土)ホテルプラザ菜の花

総会: 10時30分から

交流会: 12時から

*くわしくは別途ご案内いたします。

【編集後記】

今回は昨年11月に来葉したウィスコンシン州からの友好使節団の交流活動を紹介しました。使節団員の帰国後のレポートでは、ホストファミリーをはじめ交流活動に関わった関係者への感謝の言葉が述べられた一方、ホストファミリーの方からも貴重な経験が出来たと感謝の言葉をいただきました。CWAはこうした交流の積み重ねにより、交流の輪を拡げてまいります。

発行所: 千葉ウィスコンシン協会

発行人: 森山茂男 編集: 広報部会

<http://chiba-wisconsin.net/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階(公財)ちば国際コンベンションビュロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394(千葉県国際課内)